

# 人間改造：王手をかけられたグローバリストの終末人間計画を語る

<https://www.infowars.com/posts/transhumanism-the-end-game-epic-speech-lays-out-the-globalist-plan-for-a-post-human-future/>

Infowars | Jamie White

November 15, 2023

⇒「性転換運動は草の根運動ではない。それはトップダウンの運動だ。それは人民の言論の自由や、性の容認や、市民権とは関係がない」と、起業家 Laura Aboli は語った。

⇒「それは明確なアジェンダをもつ悪なる心理操作で、我々を transhumanism (人間改造) 計画へと誘導し、人間のアイデンティティである我々の性別という最も基本的な観念を、疑問視させようとするものである。」

起業家で芸術家であるローラ・アポーリによる強力なスピーチが、社会メディアで拡散され、この人間改造運動の真の邪悪な目的が、詳しく説明されている。

アポーリは、6月の Better Way Conference (世直し会議) で、いかに性転換運動が、自己表現に基いた草の根運動だとする主張とは反対に、それは実は、トップダウンのグローバリストの主導によるもので、核家族を破壊し、「我々の知るような人間を根絶やしする」かを狙うものであると説明した。

「過去 60 年を乗り越えてきた、すべてでなくとも、ほとんどの人々は、そのような反ユートピア的現実を、少しずつ受け入れるように慣らされてきました」と、アポーリは言った。

「あなたがそれを受け入れようと思うか否かに関係なく、我々は超高度にコントロールされたマトリックスに生きていて、そこでは我々の現実感覚は、細心に計画され、管理され、工作されて、どこでも彼らが望むような方向に、コントロールされています。」

## (必見：4 分間のスピーチ動画)

「そしてその方向が、我々のポスト人間世界なのです。」

このために彼らは、最初に、可能なあらゆる手段を用いて、人間というものを不安定化させ、非人間化させ、非道徳化させる必要があったのです。それは核家族の破壊であり、国家によって教え込まれた子どもであり、墮胎であり、教育から神と霊性を根絶することであり、大都市における、自然から切り離された生活であり、毒性をもつ食品や空気や水であり、真の人間の繋がりや交際を切り離すことであり、操作された金融危機や税制、止めどもない戦争、大規模な移民、ストレス、不安、不況、麻薬やアルコール、恒常的な恐怖の煽り戦術、新しい宗教としての道徳的相対主義、…そして私は、いかに人間が、影響や強制によって、我々に力と安全保障、目的と意味を与えるすべてのものから、切り離されようとしているかを、どこまでも語るすることができます。

「病弱で、不道徳的、孤独化され、無知で不健康な人間たちが、次の段階のたやすいターゲットです。それは、完全な両性具有人間の世代を創り出すことです」と彼女は続けた。

「性転換運動は、草の根運動ではありません。それはトップダウンの運動です。それは民衆の表現の自由や、性的寛容や、市民権とは関係のないもので、明確なアジェンダを持つ悪なる心理作戦であり、我々を人間改造政策に引き寄せようとするもので、人間のアイデンティティである、性別の最も基本的な観念を、疑問視させようとする魂胆をもつものです」と、彼女は結論した。

### [訳者 Greatchain 注]

この短い、非常に優れたスピーチに気づいて、すでに日本語版の製作を考えている方もおられるかもしれない。もしまだであれば、是非それをお願いしたい。翻訳版はいくつあってもよく大量に拡散されることを願う。著作権者をはっきり示しさえすれば、何も問題にならないのではなかろうか。

この議論を誇張されたように考え、そんな悪の力はこの日本では働いていない、と言う人もあるかもしれない。しかしこれは、私がこのサイトで長年、主張してきたことで、ここに言われていることは、わが国でも起こっている。ただわが国では、国家と合体した主流メディアが、基本的に、これとは反対の態度を取っているので、例えば、ここで批判されている人工知能のようなものでも、当然のように考え、何の疑念もなく受け入れられているかもしれない。

ここに出ているスピーチの2つのバージョンのうち、サブタイトル付きの短い方は、最初に大きく GOD と書かれている。これがこのスピーチの核心である。わが国では、神や靈的次元を公共放送で口にすることが、タブーになっているが、その理由は Laura Aboli 女史の言う通り、それが暗黒の支配者によって巧妙に禁じられているからである。そもそも無神論などというものは、ダーウィンの利用価値を認めた者たちが、ダーウィン唯物論を担ぎ出すまで、地上のどの世界にも、どの歴史にもなかったものである。NHK 番組の「ダーウィンが来た」というタイトルが、なぜそこになければならないのか、その理由は十分に推測できる。

この小気味のいいスピーチを聞いて、私がよく似ていると思ったのは、Intelligent Design の論者たちである。ここでは ID のことは言及されていないが、これほど理論的な「神仮説」と実証が、いまだに一般に普及しないのは、明かに、ここで言っている神を滅ぼそうとする「悪」の勢力が、隠然と働いているからである。ウィキペディアが言うように「科学に反する」からではない。要するに、彼ら在必死に封じ込めようとしている「神」が解放された途端に、彼らのウソと偽装と悪事が、一気に崩壊するのである。